

獣医学科の学生を対象とするキャリア形成支援セミナーの開催と 進路あるいは就職に関する学生の意識調査

深瀬 徹*・中村有加里・氏家貴秀¹⁾・尾身衛祐²⁾・太田亟慈³⁾

岡山理科大学獣医学部獣医学科

1) ロイヤルカナンジャパン合同会社ベテリナリー事業部

2) ロイヤルカナンジャパン合同会社コーポレートアフェアーズ

3) 犬山動物総合医療センター

要旨:2023年5月に、学外から講師を招き、獣医学科3年次学生を主な対象としてキャリア形成支援に関するセミナー（講演、パネルディスカッション、個別相談）を開催した。セミナー前後のアンケート調査では、参加学生は獣医師の各職域に関して自身が有する知識量が増大したと考えていた。併せて進路あるいは就職に関するアンケート調査も実施し、参加学生が就職を希望する職域や就職に関する情報源をどこに求めているかの把握に努めた。

1. はじめに

獣医学は、古典的には「動物の疾病の診断、治療、予防および動物の正常で健康な状態の維持に関する科学技術」と定義されているが、これにとどまらず、「経済的に最適な生産性の向上を含む広い領域に拡大されている」といわれる学問である¹⁾。獣医学科はこの獣医学を教育および研究する学科であるが、獣医師を養成する機関としての側面も有している。

獣医師免許は、獣医師国家試験に合格した後、獣医師名簿に登録されることにより農林水産大臣により与えられる。そして、「外国の獣医学校を卒業し、又は外国で獣

医師の免許を得た者」を除いては「学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）に基づく大学（短期大学を除く。）において獣医学の正規の課程を修めて卒業した者」でなければ獣医師国家試験を受けることができないと定められている〔獣医師法（昭和24年6月1日法律第186号、最終改正：令和4年法律第68号）〕。

したがって、獣医師免許を取得するためには、獣医学科に入学し、そして卒業する必要がある。実際、獣医学科に入学した学生ないしは獣医学科に在籍している学生はほとんどすべてが獣医師免許の取得を目指している²⁾。これらの学生の多くは卒業後（あるいは大学院に進学した場合にはその修了後）には、獣医師免許を生かした職業、または少なくとも獣医学的な知識を活用する職業に従事するのがふつうであろう。したがって、いわゆる文系の学部または学科を卒業した学生と比べると、就職先となる職種は相当に限られることになる。しかし、とはいえ、獣医師の職域ないしは獣医学関連の職域は様々であり、学生は進路の選択に苦慮することが多い。

学生の進路決定のために様々な情報を提供し、助言等を行うこともまた、大学の責務

の1つである。大学では、以前から学生の就職への支援が日常的に行われており^{3,4)}、とくに近年は、この就職支援はキャリア教育に含まれるようになってきている⁵⁻¹¹⁾。大学におけるキャリア教育の充実には、2011年に行われた大学設置基準(昭和31年10月22日文科省令第28号)の改正(平成24年5月10日文科省令第23号)において「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする」と記載されたことが背景にあるといえる。

このたび、岡山理科大学獣医学部の疫学講座では、獣医学科の学生を対象として、学生のキャリア形成、とくに就職への支援に関するセミナーを開催することを考え、学外の諸機関の協力のもとでこれを実現した。このセミナーでは、単なる職場紹介に終わらないように、初めに獣医学科の卒業生の就職の動向を解説し、また、進路あるいは就職に関するアンケート調査を行って、その結果をフィードバックするなど、主催者が疫学講座であることを鑑みて疫学的な(広義の疫学的な)要素を加味するようにした。本稿では、このセミナーの概要を紹介するとともに、アンケート調査の結果を報告したい。

2. キャリア形成支援セミナーの実施概要と成果

2-1 セミナーの実施概要

本セミナーは、ロイヤルカナンジャパン合同会社の協力を得て開催した。同社は、犬と猫のためのペットフードの製造と販売を主たる業務としているが、社会貢献にも積極的に取り組んでおり、これまで「キャリア

岡山理科大学獣医学部 疫学講座 公開セミナー
キャリア形成を疫学で科学する

獣医師の多様な職域を考える

—先輩獣医師に聞くキャリア形成—

獣医師の職域はきわめて広く、様々な分野で獣医師の最先端が活躍されています。学生の皆さんには、獣医師免許取得後に何様の可能性が広がっています。私たちは、皆さんの夢の実現を応援したいと思っています。このたび、疫学講座セミナーとして、多方向で活躍されている獣医師の先生方をお招きし、ご本人は聞くことができますが、自分のお志を疫学的な視点で読み取ることも学びました。また、「疫学」ディスカッションのファシリテーターとして、Team HOPEの働きを通して、先生方と先生方とご来学いただきます。是非とも会場いらして、獣医師の最先端の生の声をお聞かせください。

日時 2023年 5月12日(金) 15:00~18:15

場所 岡山理科大学 今治キャンパス 獣医学部棟2階
●A0223 講義室(全体会場) ●A0221 講義室, A0222 講義室, A0223 講義室, A0224 講義室 (個別相談会場)

プログラム

総合司会 深瀬 徹

第1部 15:00~16:30 様々な獣医師の職域の紹介 (講演)

- データからみる獣医科学学生の就職 (企業代表: 昭和製菓 (ロイヤルカナンジャパン合同会社))
- 製造企業で働くということ 共立製菓の場合 (第一号社: 共立製菓株式会社)
- 国家公務員の仕事 (農林水産省獣医系補給官を例にして) 西口登志江 (国庁大臣官舎勤務)
- 私はどうして小動物臨床を希望したか (北山博之先生 (UAGJの100周年記念会館センター))
- 小動物臨床の仕事 (一人前取から二次診療機関、大学企業病院まで、私の動物臨床をもとに) 中村有加里先生 (岡山理科大学獣医学部)

第2部 16:45~17:30 獣医師のキャリア形成のために (パネルディスカッション)

ファシリテーター: 本山 悠先生 (犬・動物総合医療センター)
パネリスト: 第一号社: 西口登志江先生, 共立製菓株式会社, 中村有加里先生

第3部 17:30~18:15 将来の仕事に関する個別相談会

質問: 西口登志江先生, 西口登志江先生, 中村有加里先生

第3部 サテライト 17:30~18:15 愛媛県から (個別相談を含む)

地方公務員としての仕事
総合司会: 氏家 貴秀先生 (愛媛県農業政策課長(同僚兼務)), 三城 誠先生 (愛媛県環境部環境課長(同僚兼務))

主催: 岡山理科大学獣医学部 共催: ROYAL CANIN ロイヤルカナンジャパン合同会社 後援: 獣医学部ファームリス

図1 キャリア形成支援セミナーの案内

ユニバーシティ」と称して獣医学科の学生を対象とする就職支援セミナーを8回にわたってウェブ上で行ってきた。このたびは、この「キャリアユニバーシティ」を大学構内において対面で行うことを企画し、岡山理科大学獣医学部疫学講座の公開セミナーとして実施するに至った(図1)。

具体的には、2023年5月12日の15時00分から18時15分までの3時間15分にわたって、岡山理科大学今治キャンパス獣医学部棟の講義室において、獣医学科3年生を対象として、さらに希望者は他の学年であっても参加可能として開催した。その結果、参加者は、獣医学科の3年次の在学者138名中136名(非参加の2名は留年経験者)と4~6年次の学生44名の計180名であった。

セミナーは3部構成とし、第1部は「様々な獣医師の職場の紹介」として5つの講演を行った。講演としてはまず、「データから

みる獣医学科学生の就職」と題する総論的な解説の後、それに続いて「製薬企業で働くということ 共立製薬の場合」「国家公務員の仕事 - 農林水産省獣医系技術職員を例にして-」「私はどうして小動物臨床を希望したか」「小動物臨床の仕事 - 個人病院から二次診療施設、大手企業病院まで、私の勤務経験をもとに-」という4つのテーマで4名の獣医師がそれぞれの仕事を紹介した。これらのテーマの職域は、日ごろから学生

の興味が大きいものである。

続く第2部は、動物病院開業歴が長く、獣医療界における経験が豊富な獣医師がファシリテーターを務め、第1部の4つのテーマの講演者4名がパネリストとなって「獣医師のキャリア形成のために」と称するパネルディスカッションを実施した。

その後は、上記の講演者4名が小教室に分かれ、第3部として「将来の仕事に関する個別相談会」を行った。ここでは、参加し

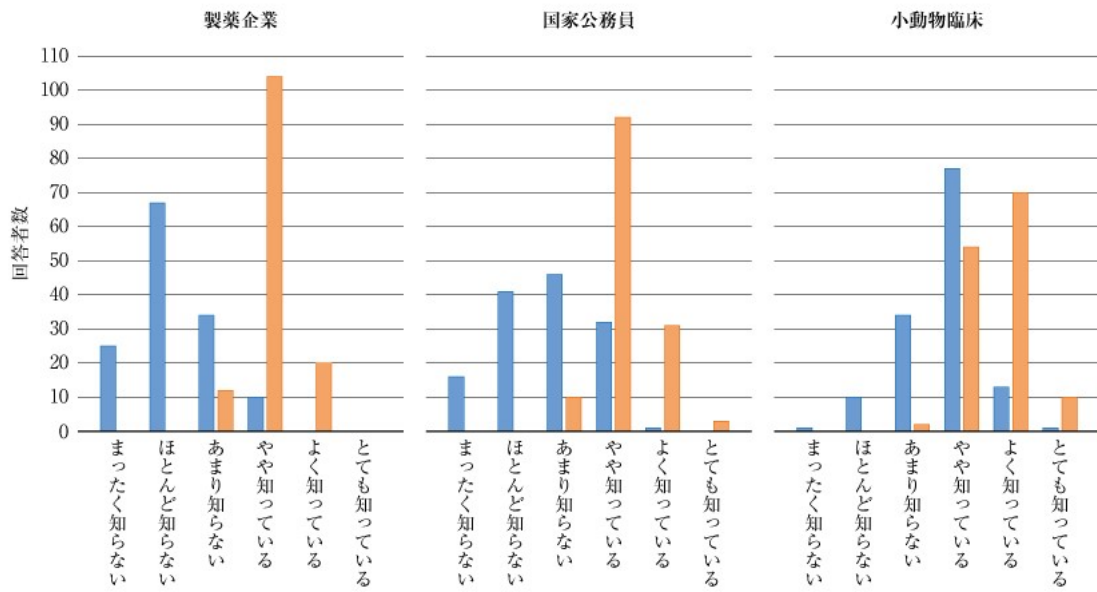


図2 セミナー参加前後の獣医師の各職域に対する参加者の知識量の変化

■ : セミナー参加前, ■ : セミナー参加後

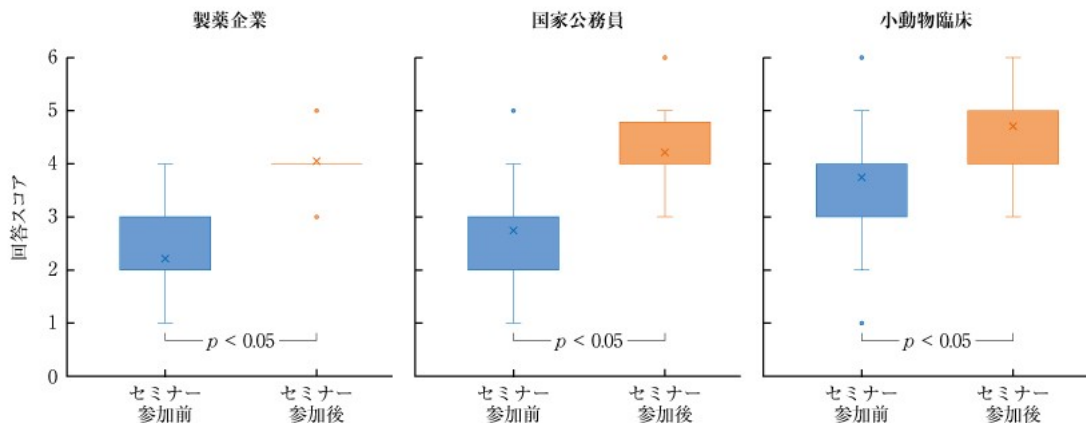


図3 セミナー参加前後の獣医師の各職域に対する参加者の知識量(スコア値)の変化

表 1 進路あるいは就職に関する学生の意識等についてのアンケート調査の設問

設問	設問内容と選択肢
1	<p>獣医学科への進学ないし獣医師免許の取得を決めた時期はいつですか。</p> <p>1. 高等学校への入学前 2. 高等学校1年生のとき 3. 高等学校2年生のとき 4. 高等学校3年生のとき 5. 高等学校の卒業後</p>
2	<p>大学卒業後の進路または職域（たとえば公務員、製薬企業等の会社員、臨床家など）を決めている方は決めた時期、まだ決めていない方は決めようと思っている時期を教えてください。</p> <p>1. 大学への入学前 2. 大学1年次のとき 3. 大学2年次のとき 4. 大学3年次のとき 5. 大学4年次のとき 6. 大学5年次のとき 7. 大学6年次のとき 8. 大学の卒業後</p>
3	<p>大学卒業後に希望している進路を教えてください。</p> <p>1. 大学院進学 2. 他学部等への入学 3. 就職 4. 家事手伝い 5. 無職 6. その他（具体的に_____）</p>
4	<p>大学卒業後（大学院進学と他学部棟への入学の方はそれらの修了または卒業後）の進路として希望している職域を教えてください（複数回答可）。</p> <p>1. 国家公務員 2. 地方公務員 3. 団体職員（農業共済協会職員など） 4. 獣医学の知識を必要とする企業（製薬企業など）の会社員 5. 獣医学の知識を直接は必要としない企業（マスコミなど）の会社員 6. 主に小動物を対象とする臨床家 7. 主に大動物を対象とする臨床家 8. 動物園等の動物展示施設の職員 9. 研究所の職員 10. 大学等の教員 11. その他（具体的に_____）</p>
5	<p>上記の設問4の選択肢のなかで、もっとも希望している進路はどれですか（1つだけ選択）。</p> <p>1. 国家公務員 2. 地方公務員 3. 団体職員（農業共済協会職員など） 4. 獣医学の知識を必要とする企業（製薬企業など）の会社員 5. 獣医学の知識を直接は必要としない企業（マスコミなど）の会社員 6. 主に小動物を対象とする臨床家 7. 主に大動物を対象とする臨床家 8. 動物園等の動物展示施設の職員 9. 研究所の職員 10. 大学等の教員 11. その他（具体的に_____）</p>
6	<p>大学卒業後（大学院進学と他学部棟への入学の方はそれらの修了または卒業後）の進路を考えると、何を参考にしますか。または、何を参考にしましたか（複数回答可）。</p> <p>1. 大学教員（チューター、卒業論文の指導教員など）からの情報 2. 大学事務からの情報 3. 家族、親族などの話 4. 知人の話 5. 就職希望先などからの紙媒体の情報 6. 就職希望先などからのウェブ上の情報 7. リクルート関連企業等からの紙媒体の情報 8. リクルート関連企業等からのウェブ上の情報 9. ウェブ上の口コミなど 10. その他（具体的に_____）</p>
7	<p>上記の設問6の選択肢のなかで、もっとも信頼できると思う情報源はどれですか（1つだけ選択）。</p> <p>1. 大学教員（チューター、卒業論文の指導教員など）からの情報 2. 大学事務からの情報 3. 家族、親族などの話 4. 知人の話 5. 進路として希望先などからの紙媒体の情報 6. 進路として希望先などからのウェブ上の情報 7. リクルート関連企業等からの紙媒体の情報 8. リクルート関連企業等からのウェブ上の情報 9. ウェブ上の口コミなど 10. その他（具体的に_____）</p>

た学生がそれぞれの興味ある分野の講師が控える教室を訪ね、直接の会話ができるようにした。パネルディスカッションのときには質問しにくいような内容も遠慮なく聞くことができるようにと、できる限りの配慮を行っている。

また、第3部と同時進行で、サテライトとして「愛媛県から」という会場も設け、獣医学部が位置する愛媛県の農林水産部と保健福祉部から各1名の獣医師を招き、「地方公務員獣医師としての仕事」に関する話を伺うとともに、個別相談にも応じるようにした。

2-2 セミナーの成果の検証

本セミナーで講師を招いた3つの領域、すなわち製薬企業と国家公務員、小動物臨床の仕事ないしは業務の内容等に関して、セミナーに参加した学生がどの程度の知識を有していると自身で考えているかについて、セミナー参加の前後でアンケート調査を行った。この際の回答は、学生自身の判断により「まったく知らない」「ほとんど知らない」「あまり知らない」「やや知っている」「よく知っている」「とてもよく知っている」の6段階での回答を依頼した。

アンケート調査の回答の集計に際しては、3年次の学生のみを対象とし、獣医学教育を受けている期間が長くなっている4年次以上の学年の学生からの回答は解析に含めないことにした。

その結果、この3つの領域ともに、自己評価の判定の度数分布は、セミナー参加前に比べてセミナー参加後のほうが「知っている」と回答した学生数が多くなっていた。ただし、小動物臨床に関しては、他の領域と比べて、セミナー参加前から知識量が多いと考えている学生が多かった(図2)。ここで、この回答の6段階評価を1~6に点数化したところ、セミナー参加前よりもセミナ

ー参加後の値が大きく上昇し、この間で有意な差($p < 0.05^{12)}$ 、Wilcoxonの符号付順位検定¹³⁾が認められた(図3)。

3. 進路あるいは就職に関する学生の意識等のアンケート調査

3-1 アンケート調査の方法

セミナーの第2部の終了時に、参加者を対象として、進路あるいは就職に関する意識についてアンケート調査を実施した。設問は表1のとおりとし、獣医学科への進学ないし獣医師免許の取得を決めた時期(設問1)、大学卒業後の進路または職域を決めた時期あるいは決めようと思っている時期(設問2)、大学卒業後に希望している進路(設問3)、大学卒業後の進路として希望している職域(設問4と設問5)、進路を考えるときに参考にする情報源(設問6と設問7)を尋ねた。

なお、このアンケート調査にあっても、前述の調査と同様に、獣医学科3年次学生からの回答を集計することにした。

3-2 アンケート調査の結果

設問1の獣医学科への進学ないし獣医師免許の取得を決めた時期に関しては、「高等学校への入学前」との回答が136名中61名(45%)と半数近くを占め、次いで「高等学校3年生のとき」が29名(21%)であった

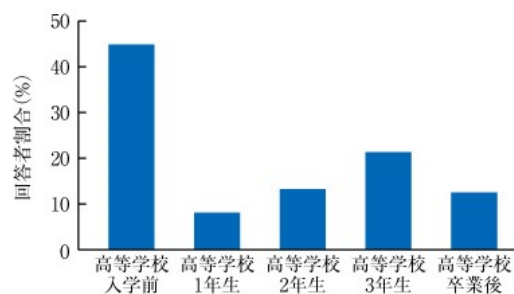


図4 設問1「獣医学科への進学ないし獣医師免許の取得を決めた時期はいつですか」に対する回答

(図 4)。

設問 2 の大学卒業後の進路または職域を決める時期については、「大学への入学前」が 48 名 (35%)、次いで「大学 4 年生のとき」が 40 名 (29%) との回答であった (図 5)。

設問 3 の大学卒業後に希望している進路としては就職が圧倒的に多く、133 名 (98%) の学生が就職を希望していた。このほかの回答としては、「大学院進学」が 2 名 (1.5%) であり、「その他」を選択して留学と記載したのが 1 名 (0.7%) であった (図 6)。

設問 4 では、大学卒業後 (大学院進学希望者と他学部等への入学希望者はそれらの修了または卒業後) の進路として希望している職域について複数回答を可として尋ねたが、113 名 (83%) が「小動物臨床家」を希望していた。「小動物臨床家」以外では、「大動物臨床家」が 47 名 (35%)、「動物園職員」が 39 名 (29%)、「国家公務員」が 29 名 (21%)、「地方公務員」が 26 名 (19%) の順となっていた。なお、「その他」を選択した 1 名 (0.7%) は野生動物保護とのことであった。続いて、設問 5 として、希望する職域のうちでもっとも希望しているものを尋ねた結果、「小動物臨床家」の希望者が 90 名 (66%) であり、これ以外の職域に関してはいずれも、希望する学生は 10% に満たなかった (図 7)。

設問 6 で進路を考えるときに参考にする情報源について複数回答を可として質問したところ、回答者が入手先としてあげたのは多岐にわたっていたが、とくに「大学教員の話」と就職希望先からの情報 (ウェブ) としての回答者が多く、それぞれ 109 名 (80%) と 91 名 (67%) であった。ここで、設問 7 として、これらの情報源のうちでもっとも信頼しているものを尋ねたところ、70 名 (51%) が「大学教員の話」と回答し、就職希望先からの情報 (ウェブ) としての

は 19 名 (14%) に低下していた (図 8)。

以上のアンケート結果は、集計後に回答者の全員にフィードバックした。

4. 考察

大学卒業後の就職は、キャリア形成の第一歩である。ほとんどの大学生が大学在籍中に就職先を決定する、あるいは決定したいと考えているという現状を考えれば、大学が丁寧な就職支援を行うべきであることはいうまでもなく、就職支援は大学が行う日常的な業務になっている。また、初めにも述べたように、近年は、キャリア教育に就職支援が包含されることもあり、教育の一環としても位置づけられている⁵⁻¹¹⁾。

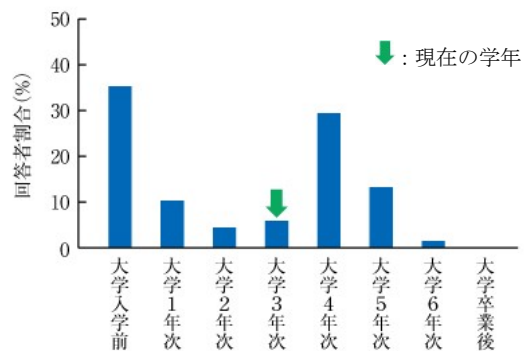


図 5 設問 2 「大学卒業後の進路または職域 (たとえば公務員, 製薬企業等の会社員, 臨床家など) を決めている方は決めた時期, まだ決めていない方は決めようと思っている時期を教えてください」に対する回答

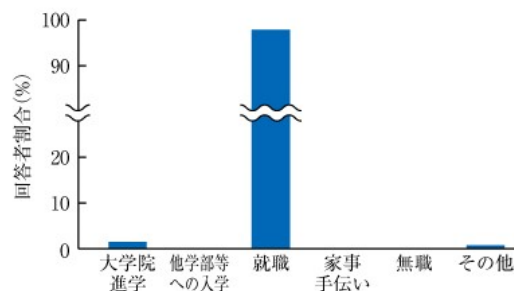


図 6 設問 3 「大学卒業後に希望している進路を教えてください」に対する回答

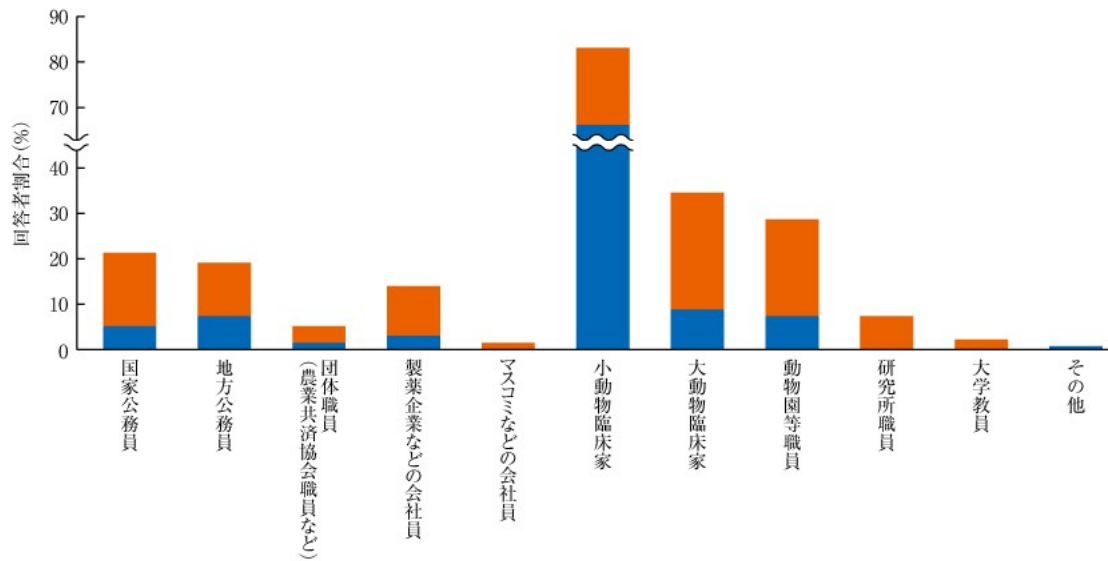


図 7 設問 4「大学卒業後（大学院進学と他学部棟への入学の方はそれらの修了または卒業後）の進路として希望している職域を教えてください(複数回答可)」および設問 5「設問 4の選択肢のなかで、もっとも希望している進路はどれですか（1つだけ選択）」に対する回答

■：もっとも希望している進路とした回答者

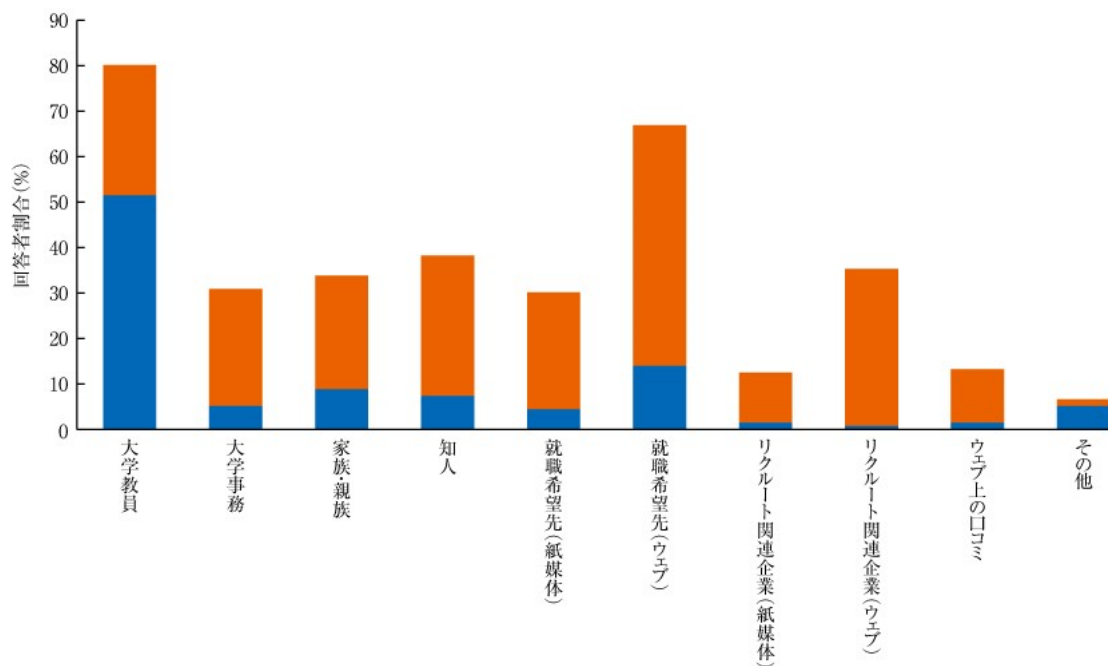


図 8 設問 6「大学卒業後（大学院進学と他学部棟への入学の方はそれらの修了または卒業後）の進路を考えると、何を参考にしますか。または、何を参考にしましたか（複数回答可）」および設問 7「設問 6の選択肢のなかで、もっとも信頼できると思う情報源はどれですか（1つだけ選択）」に対する回答

■：もっとも信頼できる情報源とした回答者

ところで、選抜性が高い（いいかえれば偏差値が高い）大学の学生は、選抜性が低い（いいかえれば偏差値が低い）大学の学生と比べて、より熱心に就職活動に取り組む傾向があるという¹⁴⁾。しかし、その一方、偏差値が高い大学の卒業生の実就職率が高いとは必ずしもいえないともいわれている¹¹⁾。ここで獣医学科の卒業生の就職について考えると、就職以前の問題として獣医師国家試験に合格することが求められるという特殊性がある。そして、就職に関しては、どのような分野に就職すべきかを考えるのが先決であると思われる。

こうした観点から、獣医学科にあっては、就職試験への対策などの就職活動の具体的な方法についてよりも、まずは進むべき分野を考える指針を与えることが重要であろうと考えた。したがって、獣医師の各種の職域を解説するという趣旨のもとで在学学生を対象とするセミナーを開催することにも意義があると思われる。ただし、そのセミナーの対象とする学年を決定するのは、必ずしも容易ではない。6年制の学科にあっては、1年次や2年次の頃には就職に対する意識が現実味を帯びておらず、一方、5年次と6年次の学生はすでに進路を決定していることも多いからである。したがって、すべての学年の学生に適したセミナーを行うことは難しく、対象とする学年をある程度は限定するほうが望ましいように考えている。

このたびのセミナーは、6年制の学科である獣医学科において卒業までの年月の1/3以上を経過している3年次の学生を主な対象とした。3年次以降に就職先などについて考えることが多くなるであろうと想定し、そのための指針ともなる情報を提供したいとの意図からである。実際、3年次在学者のほとんど全員が本セミナーに参加しており、就職に対する関心が高いことを示している。ただし、4年次と5年次、6年次

の学生も44名が参加しており、今後はこのような上級学年向けに、より具体的な講演内容のセミナーを行うことも必要であろうと思われる。

本セミナーでは、獣医師の各種の職域のなかから、動物専門の製薬企業、農林水産省、小動物を対象とする動物病院、そして地方自治体のそれぞれの仕事の紹介を行った。このほかにも、獣医師には多くの職域があるが、多くの学生が興味を示す対象の多くを取り上げたと考えている。大学に勤務する教員ないしは事務職員が獣医師の多様な仕事を紹介するよりも、実際に各職域で働いている獣医師による講演を聴講するほうが現実的であり、具体的でもある。また、その職域を選択した経緯や採用試験の様子なども詳細に聞くことができ、学生には有益な情報を提供できたのではないだろうか。

このセミナーの成果を評価することは現時点では難しいが、セミナーの前後で製薬企業と国家公務員、小動物臨床の各領域に関する知識量を尋ねたアンケート調査では、いずれの領域についても知識量が増したと学生は考えたようである。少なくとも各職域に関する知識の提供という点に関しては、ある程度の成果をあげることができたと考えている。

以下、進路ないしは就職に関する意識についてのアンケート調査の結果について考えたい。これによれば、獣医学科への進学ないし獣医師免許の取得を決めた時期は「高等学校への入学前」との回答が多く、獣医学科への入学者の半数近くは早期から進路を考えていたことが明らかになった。また、大学卒業後の進路または職域を決めた時期あるいは決めようと思っている時期についても、「大学への入学前」との回答が1/2近くであり、進路や職域に関してどの程度の具体的な展望をもっていたかはともかく、獣医学科への入学ないし獣医師免許の取得を

考えた時期とよく一致していた。すなわち、獣医学を志向する学生のおよそ半数は相当に早期から進路を考えていたといえる。したがって、獣医学科への進学を考えている高等学校生に対してどの大学を選ぶかに関して訴求するためには、高等学校生を対象とする入試案内、たとえばオープンキャンパス等でよいのだが、仮に獣医学を志向する学生の数の増大を図ること、獣医学志向者の裾野を広げることを考えるのであれば、高等学校入学前、たとえば中学生を対象とする対応も必要であろう。

しかし、一方で、進路を決めるのは「大学4年生のとき」と回答した学生も40%が存在した。これはアンケート調査の対象者が3年次の学生であったためであり、必ずしも4年生のときではなく、卒業までにできる限り早く、という意味であろうと解釈した。ある程度の明確な将来を考えて入学しなかった学生は、大学卒業までに進路を決定すればよいと考えていると思われる。この点においても、大学入学後に、獣医学が関係する様々な職域を紹介する意義がある。

なお、大学卒業後（大学院進学希望者と他学部等への入学希望者はそれらの修了または卒業後）に希望する進路としては「就職」との回答が圧倒的に多かった。6年制である獣医学科の卒業後に進学する大学院博士課程は4年制であり、このような長期間にわたる就学には経済的な負担など、様々な負担が発生することも、進学希望者が少ない一因であるかもしれない。

このたびのアンケート調査では、小動物臨床を将来の進路の第一希望として考えている学生が全体の66%を占めていた。これに対して、農林水産省による2022年度の獣医関係大学卒業生就職状況調査では、愛玩動物関係の個人診療移設に就職した学生は全体の46.7%であったという¹⁵⁾。また、北海道大学では2019～2021年度の卒業生の

うちで小動物臨床に進んだのは20%とのことであり¹⁶⁾、さらに低い割合である。本学部において小動物臨床を志向する学生の割合が多いのは本学部の特徴であるかもしれないが、今回のアンケート調査は3年次学生を対象としており、卒業までに希望が変化する可能性は大きい。今後、各学年の学生を対象とした調査を行い、学年の進行にともなって希望する進路が変化するか否かを検討したいと考えている。

学生は、就職活動に際して様々な情報を入手していくわけであるが、その入手先としてあげられたのは様々であった。多方面から情報を入手し、それらを精査しようとする学生の姿勢がうかがわれる。ただし、そうした多くの情報源のなかで信頼しているものとしては「大学教員からの情報」と回答した学生が80%と多かった。また、「大学事務職員からの情報」が信頼できるとした学生も31%が存在した。このような期待に応えられるように、大学側は正確な情報を学生に提供できるように常に注力しておく必要があることを再認識した。

キャリア形成は、生涯にわたって、あるいは少なくとも高齢になってリタイアするまでは継続する。大学生にとって、その第一歩は、大学卒業時の進路決定であろう。大学生が卒業時にどのような進路を選択するか、それは最終的には個人の判断であるが、適切な判断を行うことができるように、大学としては、より多くの正確な情報を学生に提供していくべきである。

このたびの試みのように外部から講師を招いての講演会や個別相談会は、大学にいながらにして現場で働いている人々の生の声を聞くことができ、また、日ごろの講義等にはない斬新さもあるために、聴講する学生の集中の度合いが高かったように思う。就職に関連したアンケート調査の結果等も参考にし、今後もこのような活動を行いた

いと考えている。

謝辞

本稿に記載したセミナーに関して、開催当日に株式会社ファームプレスの取材を受け、同社が発行している獣医師向けの情報誌である『MVM (Journal of Modern Veterinary Medicine)』で紹介記事が掲載された¹⁷⁾。取材とともに、記事を掲載して下さった同社の金山宗一氏に深謝いたします。

参考文献

- 1) 友田 勇 (総監修):ブラッド獣医学大辞典, 512 文永堂出版 (1998)
- 2) 深瀬 徹・中村有加里・向田昌司・尾崎 博: 獣医師国家試験および獣医学共用試験に関する岡山理科大学獣医学部獣医学科学生の知識と意識 - 試験対策に関する若干の考察とともに -, 岡山理科大学教育実践研究, 5, 91-100 (2021)
- 3) 高橋桂子・松井賢二: 大学における就職支援の在り方に関する考察 - 大学の就職支援に対する学生の評価 -, キャリア教育研究, 24 (2), 21-27 (2006)
- 4) 小杉礼子: 大学生の進路選択と就職活動, 高等教育研究, 11, 85-105 (2008)
- 5) 田澤 実: 大学におけるキャリア教育の課題 - 大学設置基準の改正に伴って -, 心理科学, 32 (1), 9-21 (2011)
- 6) 中里弘穂: 大学におけるキャリア教育実践の現状と今後の展望, 経済教育, 30, 178-187 (2011)
- 7) 谷田川ルミ: 戦後日本の大学におけるキャリア支援の歴史的展開, 名古屋高等教育研究, 12, 155-174 (2012)
- 8) 菊池武烈: キャリア教育, 日本労働研究雑誌, 621, 50-53 (2012)
- 9) 宇賀田栄次: 大学教育改革としてのキャリア教育の在り方に関する考察 - 進路指導・就職指導機能との区別の観点から -, 大学アドミニストレーション研究, 8, 17-31 (2018)
- 10) 児美川孝一郎: 大学におけるキャリア支援・教育の現在地 - ビジネスによる侵蝕, あるいは大学教育の新しいかたち?, 日本労働研究雑誌, 716, 89-100 (2020)
- 11) 上野恵美・趙 彩尹: 日本の大学における「キャリア教育」の動向 - 人生 100 年時代を見据えた「キャリア教育」への一考察, 教育経済学研究, 1, 1-11 (2022)
- 12) Cowles, M., Davis, C. : On the origins of the .05 level of statistical significance, American Psychologist, 37 (5), 553-558 (1982)
- 13) Wilcoxon, F. : Individual comparisons by ranking methods, Biometrics Bulletin, 1 (6), 80-83 (1945)
- 14) 清水 一: 大学の偏差値と退学率・就職率に関する予備的分析: 社会科学系学部のケース, 大阪経大論集, 64 (1), 57-70 (2013)
- 15) 農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課, 動物衛生課: 令和 4 年度獣医関係大学卒業生就職状況調査結果の結果, 家畜衛生週報, 74 (45), 359 (2022)
- 16) 苺和宏明: 各分野で活躍する獣医師のさらなる飛躍に向けて (X) 大学間連携による獣医学教育改善と獣医学生の就職動向, 日本獣医師会雑誌, 75 (7), 290-292 (2022)
- 17) MVM 編集部: 岡山理科大学獣医学部疫学講座公開セミナー「獣医師の多様な職域を考える - 先輩獣医師に聞くキャリア形成 -」開催される, MVM [エムブイエム] (Journal of Modern Veterinary Medicine), No. 213, 92-93 (2023)